

群 教 セ	G09 - 02
	平 15.214集

英語ですすんで自己表現しようとする態度を育てる指導の工夫

オーラルプレゼンテーション活動を通して

特別研修員 小川 加寿美 (太田市立城西中学校)

主題設定の理由

現代のような国際社会においては様々な場面で英語を使用することが多い。たとえば、国際交流の機会も多く、海外に出る人、海外から日本に来る人などが増加しており、交流が盛んになっているため、自分の考えたことや思ったことを相手に伝える場面も多く求められる。そのような中で、自分が思ったことを表現して相手に伝えるということが苦手であるという日本人が多いことも事実であると思われる。学習指導要領でも、「話すこと」の活動における、「自分の考えや気持ちなどを含めるといこと」の必要性を指摘している。したがって、単に日常会話ができるということより、見たり、経験したことに対し、自分の考えや思いなどを英語ですすんで伝えられるようになることが、今後ますます必要になってくるのではないかと考える。

今年度より本校の2年生では、事前調査により、生徒の希望を加味した習熟度別クラス編成を行い、少人数指導を始めた。本研究で対象とする生徒は、2クラスを「基礎」「標準」「発展」の3クラスに分けた中での「発展クラス」の生徒である。アンケート結果によると「発展クラス」の生徒は、「英語を使ってスピーチができるようになりたい」「外国人に英語を使って考えていることを話せるようになりたい」「英語でコミュニケーションができるようになりたい」というように、英語を使って自分の考えたことや思ったことを表現できるようになりたいと考えていることがわかった。しかし、英語を使って人前で表現したりすることに対して、わかっていることであっても失敗や間違いを気にするあまり、自信がもてない様子が感じられた。昨年度までの授業の中では、一人一人が英語で発表したり、考えを述べたりするなどの場が少なく、学習形態の工夫が足りなかったためであると思われる。そのため、生徒が英語を使う実際の場面をなるべく増やし、自分の考えることや思うことを英語で発表する機会を多くしていくことが必要であると考えた。

そこで本研究では、オーラルプレゼンテーション活動を通して、生徒がすすんで自己表現しようとする態度を育てる授業を考えた。取組としては、まず自分の興味・関心のあるものについて思うことを簡単な英文にまとめ、カードや写真などを示しながら発表し合い、自分の選んだテーマについて自分の思うことをスピーチとしてまとめ、最終的には自作の絵を活用しながら全体の前で発表する活動を行う。カードや写真、自作の絵を用いながら発表することは、相手に自分の思いが伝わりやすく、個性的なスピーチになると同時に、失敗や間違いを恐れられない楽しい雰囲気になるであろうと考える。

以上のように、自分の考えることや思うことを簡単な英文にまとめ、オーラルプレゼンテーション活動を通して発表する場面を授業に取り入れることで、英語ですすんで自己表現しようとする態度を育てることができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

英語での自己表現の場において、自分の考えることや思うことを英文にしてまとめ、カード

や写真、自作の絵などを用いて発表するオーラルプレゼンテーション活動を段階的に行えば、英語ですすんで表現しようとする態度が育つことを明らかにする。

研究の見通し

- 1 基本の過程で、自分が興味・関心のある身近なものについて簡単な英文でわかりやすく相手に伝えるオーラルプレゼンテーション活動を行えば、英語で自分の思うことを表現する面白さに気づき、興味をもって取り組むようになるであろう。
- 2 応用の過程で、自分が興味・関心のある身近なものについてさらに工夫した英文に修正し、言いたい内容を自信をもって相手に伝えるオーラルプレゼンテーション活動を行えば英語で自分の思うことを表現することに慣れるであろう。
- 3 発展の過程で、自分が選んだ身近なテーマについて考えることや思うことを表現し、気持ちを込めたスピーチにするオーラルプレゼンテーション活動を行えば、英語ですすんで自己表現しようとする態度が身に付くであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 英語ですすんで自己表現しようとする態度について

「英語ですすんで自己表現しようとする態度」とは、生徒自身が学習した言語材料を使ったり、自分で調べたりしながら、自分の考えることや思うことを英語で相手に積極的に伝えようとしたり、失敗や間違いを恐れず、身振り手振りを交えながら意欲的に話そうとする姿勢であるととらえた。本研究における「英語ですすんで自己表現しようとする態度をもつ生徒像」とは、自分の考えることや思うことを簡単な英文でまとめられ、恥ずかしがらずに人前でカードや写真、絵などを使って発表できる生徒であると考えた。本研究を通して、見たり、聞いたり、経験したりすることに対する自分の考えや思いを英文にして積極的・意欲的に話そうとする態度を身に付けさせたい。

(2) オーラルプレゼンテーション活動の意義について

「オーラルプレゼンテーション活動」とは、人前で自分の考えや思いが言えるようになることを目指して行う活動としてとらえた。ここでは、それぞれの興味・関心に応じて、それについての考えや思いを表現する力を育成するために、興味・関心のある物事に関するカードや写真、絵を示しながら、相手にわかりやすく、簡単な英語で伝える活動とした。このようなオーラルプレゼンテーション活動は、視線・イントネーション・感情の入れ方・声の音量などを工夫でき、「恥ずかしがらず、自分の考えや思いを人に伝えようとする力」を育てるのに有効な発表活動であり、個性ある英語表現ができると考える。

2 具体的な活動方法

すすんで自己表現できる態度を育成するために、生徒がよく知っており、しかも興味・関心をもっている内容について英語で表現する活動を行う。ここでは、次の三つの方法を取り入れた。

(1) 「わかりやすく相手に伝えるオーラルプレゼンテーション活動」について

自分が興味・関心をもっていることであれば、自分の思いを言いやすく、簡単な表現にまと

められると考える。この活動は、自分の興味・関心のある身近なものについて紹介する内容を書いたカードを作成しそれを示しながら、英語で発表する活動である。カードを用いることにより、聞き手に自分の気持ちが理解されやすく、話しやすいと思われる。

(2) 「自信をもって相手に伝えるオーラルプレゼンテーション活動」について

自分の考えや思いを伝えるには、さらに何を述べたらよいのかをお互い指摘し合うことが効果的である。そのため、相手の英文について質問し合う活動を行い、工夫した表現に修正していく。そして自分の興味・関心のあるものに関連した切り抜きの写真や実物を見せながら、英語で発表する。写真や実物などを示して話すことは、それへの考えや思いが入りやすく、相手にも伝えやすいと考える。また、楽しい雰囲気になり、失敗や間違いを気にせず、自信をもって話すことができると思われる。

(3) 「気持ちを込めたスピーチにするオーラルプレゼンテーション活動」について

(1)と(2)の活動をふまえた発展的な活動として、選んだテーマの具体的な話題について自分の考えることや思うことを英文にし、絵に描いて示しながら発表する。自分で絵に描いて示すことにより思いも強くなり、工夫を凝らした個性的なスピーチになるとと思われる。ここでは、生徒の選択に任せて、(2)で使った写真などを画用紙にはって工夫して使ってもよいし、新しいテーマであれば、改めて自分で描いてもよいとした。

以上のようにカードや写真、絵を用いたオーラルプレゼンテーション活動は、自分の考えや思いを人にわかりやすく伝えることができ、自己表現活動には効果的であると考える。

3 英文を作るための支援について

「基本文集」と「自己表現文例集」について

- ・ 「基本文集」は、生徒が質問文を考えたり、スピーチの内容を作成する時に活用する英語表現をまとめたものである。三つのパートから構成され、パート1は疑問詞を使った質問文の例をまとめたものである。特に内容について聞き合い、英文を増やす工夫をする時に有効である。また、パート2は文と文をつなぐ言い方をまとめたものである。これは、まとまった文章を作成したい場合に有効である。パート3はスピーチ特有の表現を紹介したものであり、スピーチの書き方を学ぶのに有効である。
- ・ 「自己表現文例集」は、自分の考えや思いや意見を述べる時に活用する感情表現など、自分の考えや思いを伝え易くする文でまとめたものがある。三つのパートから構成され、パート1は、“ I think that ~. ” “ I’m sure ~. ” など自分の考えや意見を伝える表現をまとめたものである。パート2は、“ I want to~. ” “ I wish that~. ” など気持ちを伝えたり自分の意思を表したりする表現でまとめたものである。パート3は、“ interesting ” “ disappointed ” など、感情や感想を述べる語句でまとめたものである。

4 研究の方法

(1) 授業実践計画

期 間	平成 15 年 10 月中旬 ~ 11 月上旬	教 科	外国語 (英語)		
対 象	太田市立城西中学校 2 年 1・2 組 発展クラス	男子 9 名	女子 12 名	合計 21 名	
題材名	自分の考えや思いを英語で表現して発表しよう	時 間	7 時間		

(2) 抽出生徒について

A 男	理解力はすぐれているが自分の考えなどを表現することには消極的である。オーラルプレゼンテーション活動を通して、多くの発表の練習の場を与えながら支援したい。
B 女	英語学習は好きで、意欲的に取り組んでいる。しかし、発言・発表には、自信がない様子が見られる。オーラルプレゼンテーション活動を通して、自信をもたせる言葉かけをしながら支援したい。

(3) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証方法
見通し1	基本の過程で、自分が興味・関心のある身近なものについて簡単な英文でまとめ、それを紹介するカードを示しながら、ペアでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、英語で自分の思うことを表現する面白さに気づき、興味をもって取り組むために有効であったか。	・観察 ・ワークシート ・自己評価カード
見通し2	応用の過程で興味・関心がある身近なものについての英文を聞き合い、それを参考にしてさらに工夫した表現に修正し、写真や実物を示しながら、グループでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、英語で自分の思うことを表現することに慣れるために有効であったか。	・観察 ・ワークシート と ・自己評価カード
見通し3	発展の過程で、「大切なもの」「感動したこと」「やってみたいこと」の三つのテーマから一つ選び、自分が考えることや、思うことを英文でまとめ、絵に描いて示しながらクラスでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、成就感をもち、英語ですすんで自己表現しようとする態度が身に付くために有効であったか。	・観察 ・ワークシート ・相互評価カード

研究の展開

1 題材の考察と目標

題材の考察	本題材では、自分の考えることや思うことをまとめた文にし、オーラルプレゼンテーション活動を通して、間違いを恐れずにすんで英語で表現する活動を行う。このような発表練習を重ねることで、言いたいことを大きい声で自信をもって表現できるようになると考える。基本と応用の過程では、興味・関心をもっているものについての英文をカードや写真などを用いて発表し合う。発展の過程では生徒がテーマを選び、それについての英文を、自作の絵を示しながら、全体の前で発表するという活動を行う。このようなオーラルプレゼンテーション活動を通して、英語ですすんで自己表現しようとする態度を育てることができると考える。
目標	興味・関心のある物事についてまとめた英文を、カードや写真、絵などを示しながらオーラルプレゼンテーション活動を行うことにより、自分の考えることや思うことを英語ですすんで表現する。

2 評価規準

観 点	おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	自分が興味・関心をもっているものについて自分の考えを述べようとする。	自分が興味・関心をもっているものについて考えや思いを入れて、積極的に相手に伝えようとする。
表現の能力	自分が言いたいことについて、はっきりとした口調で表現でき、発表できる。	自分が言いたいことについて、視線・イントネーション・声の音量などに注意して相手に伝わるようにわかりやすく表現できる。
理解の能力	友達のスピーチについておおまかに理解し、自分のスピーチについて質問に答えられ、自分のスピーチの表現の一部を直すことができる。	友達のスピーチについて正しく理解し、自分のスピーチについての質問を参考にして、自分のスピーチを直したり、新たに付け加えたりできる。
言語や文化についての知識・理解	自分の考えを人に伝えるときに必要な事柄を理解できる。	自分の考えを人に伝えるときの姿勢や態度の面に気づき、自分の発表に取り入れることができる。

3 指導計画 (全 7時間計画)

過程	時間	学習活動	支援及び指導上の留意点	評価項目
基 本	1	【見通し】 ・「自分の考えや思いを英語で発表しよう」という学習の目的や内容を伝える。 ・今自分が関心をもっていることや好きなものなどについて考え、ワークシート に記入したあと、カードを作成する。 ・興味・関心をもっているものについて聞き合う活動をする。	・ALT が例を示し、自分を表現することの楽しさを伝え、内容の確認を図る。 ・「好きなもの」「大事にしているもの」「関心があるもの・人」など自分の考えが伝えやすいものをカードに書くように助言する。 ・ワークシート を活用して、質問文を書き入れ、また、「基本文集」を参考にして英文を考えさせる。	・自分の考えを相手に伝えるという活動を理解し、興味をもって取り組もうとしている。【関】 ・自分で興味のあることについて質問したり、答えたりできる。【表】
	2	【見通し1】 ・自分が興味のあるものについての考えを英文でまとめ、ペアで自分のカードを見せながらオーラルプレゼンテーション活動を行う。	・自分の言いたいことをまとめるために、「ワークシート」や「基本文集」「自己表現文例集」を参考にして自分の言いたい表現を選ぶようにし、書けない生徒には個別に指導し、間違いを恐れぬよう助言する。	・自分の考えを入れて文章が3文以上書ける。【表】 ・間違いを恐れず話そうとしている。【表】
応	3	【見通し1】 ・ペアで発表し合った内容について質問事項を考えワークシート に記入する。 ・作成した質問を聞き合う活動をし、そ	・質問されたことがわかるようにワークシート を仕上げるようにする。 ・ワークシート に、修正した表現を加えていくよう	・相手の英文の内容を理解して、質問事項を考えている。【理】 ・わかりやすい表現で、質問

用	<p>れを参考にして、さらに自分の英文を修正する活動を行う。</p> <p>・実物や写真の切り抜きを参照し、それについて発表できるようにグループ内で発表練習する。</p> <p>・グループで実物や写真を示してオーラルプレゼンテーション活動を行う。</p> <p>【見通し2】</p>	<p>にして、自分の言いたいことを付け加え、内容を深めるようにする。「基本文集」「自己表現文例集」も参考にして表現を選んでいくように伝える。</p> <p>・実物や写真を示すことで英文も相手に伝わりやすくなるため、英文も間違いを気にしないように伝える。</p> <p>・イントネーションやアイコンタクトに注意して相手に伝えることを意識するように助言する。</p>	<p>している。 【表】</p> <p>・新たに表現を付け加えて文章が書けている。 【表】</p> <p>・実物や写真を示し、英文を表現できる。 【表】</p> <p>・イントネーションやアイコンタクトに注意して自分の考えを伝えている。 【表】</p>
発 展	<p>5</p> <p>・三つのテーマの中から一つ選び、まとめた内容の英文でまとめる。</p>	<p>・生徒が興味・関心をもて、わかりやすく、思いも込められるという観点から三つのテーマあげ、自分の興味があるものを選択するようにする。</p> <p>具体的なテーマ：「大切なもの」「感動したこと」「やってみたくこと(夢・希望)」</p>	<p>・自分の考えや意見が表現できるようなテーマをすすんで選んでいる。 【関】</p>
	<p>6</p> <p>・自分が言いたいことがまとめた文章にできたら相手に伝わるように発表練習をする。</p>	<p>・「基本文集」「自己表現文例集」「ワークシート」を参考にしていくように助言する。</p>	<p>・ワークシートを参考にして、10文程度の文章に表現できている。【表】</p>
	<p>7</p> <p>・英文の内容について描いた絵を示しながらオーラルプレゼンテーション活動を行う。</p> <p>【見通し3】</p> <p>・教師の話聞く。</p>	<p>・自分の発表については間違いを気にせず、自分が考えることや、思うことがわかるように、絵も活用するように助言する。</p> <p>・友達の発表には賞賛し、認め合い、良いところは取り入れるように助言する。</p> <p>・ALT に体験談や意見を話してもらい、これからの国際人としてのあり方を伝える。</p> <p>・自分の考えや意見はしっかりと自信をもって伝えることが大切であると助言する。</p>	<p>・絵を見せて発表している。 【表】</p> <p>・ALTの話が理解できる。【理】</p> <p>・自信をもってすすんで自分の考えを表現することの大切さを理解している。 【知・理】</p> <p>・感想や相互評価が書ける。 【表】</p>
<p>・自己評価カード・相互評価カードに記入をする。</p>	<p>・オーラルプレゼンテーション活動を通して、自分の考えや思いが伝えられたことに満足感が味わえるような肯定的評価をするように言葉をかける。</p>		

(注) 【関】: コミュニケーションへの関心・意欲・態度 【表】: 表現の能力 【理】: 理解の能力
【言】: 言語や文化についての知識・理解

研究の結果と考察

1 基本の過程で自分が興味・関心のある身近なものについて簡単な英文にまとめ、それを紹介するカードを示しながら、ペアでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、英語で自分の思うことを表現する面白さに気付き、興味をもって取り組むために有効であったか

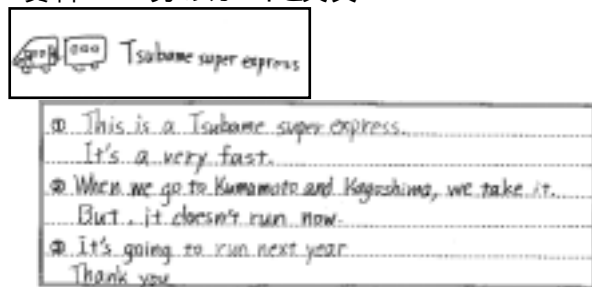
まず、「自分が興味・関心があるものについて英語で言えるようになる。」という学習課題を提示し、ワークシート に自分が興味・関心をもっていることをまとめ、それを紹介するキーワードを書いたカードを作成した。自分のペアと互いにカードを見せ合い、相手が何に興味があり、どんなことを思っているのかを英語で簡単に聞き合い、ワークシート に思っていることを3行～6行の英文でまとめた。

A男は鉄道が好きで、特に新幹線に興味があるため、やる気をもって取り組む様子が見られ、新幹線について思っていることについて簡単な英文で書いた(資料1)。自分の考えを人前で述べるにはやや消極的なA男であるが、カードに“Tubame super express”と書いて明るい表情でオーラルプレゼンテーション活動を行った。「友達から『内容がよくわかった』と言われた。」と喜んでいて。授業後の自己評価でA男は「カードを見せると新幹線のことがよくわかってもらえた気がして楽しかった。」「カードを見せると恥ずかしくない。」と感想に書いていた。

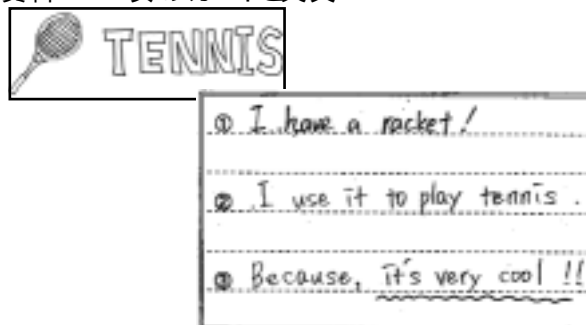
B女はテニスが好きなので、気に入っているラケットについて書いた。B女は授業前に、「考えを英文で表すのは自信がない。」と言っていたので、「基本文集を使ってごらん。」と助言した。B女は授業中も「『かっこいい』とは何て言うのか。」と質問に来るなど、教科書にはない単語も意欲的に使いながら英文を作成できた(資料2)。そのあと、好きなテニスについての英文を述べるので“tennis”とカードに書き、それを示しながらペアでの発表活動を行った。B女は“tennis”と書かれたカードを見せ、楽しそうにテニスについての自分の思いを表現していた。この活動後、B女も「カードを見せると、気持ちをを入れて言えたような気がしておも

しろかった。」と感想に書いていた。

資料1 A男のカードと英文



資料2 B女のカードと英文

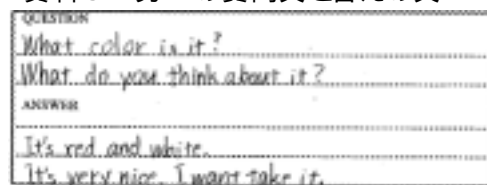


以上のことから、基本の過程で自分が興味・関心のあ りる身近なものについて簡単な英文にまとめ、それを紹介するカードを示しながらペアでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、英語で自分の思うことを表現する面白さに気付き、興味をもって取り組むために有効であったと考える。

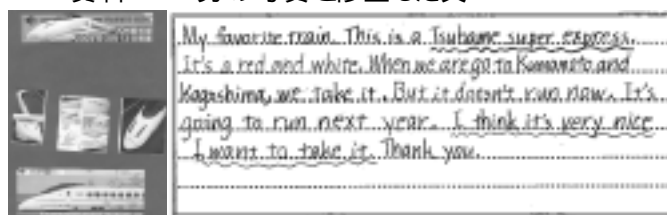
2 応用の過程で自分の興味・関心がある身近なものについての英文を聞き合い、それを参考にしてさらに工夫した表現に修正し、写真や実物を示しながらグループでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、自分の思うことを表現することに慣れるために有効であったか

まず、相手から聞いた英文についてさらに知りたいことを考え、英語で聞き合う活動を行った。生徒は質問を英文で考えるのに、基本文集に載っている表現を利用したり、辞書を使いながら、ワークシート に2～3文作成した。A男は資料3のように友達から二つ質問を受け、それについてはすぐにその答えを作成できた。その活動を参考にして基本の過程で作成した英文に修正を加え、“I want to ~.” “I think ~.” など自分の考えや思いを伝える表現を取り入れて、英文にできた(資料4)。 A男は「質問に答えたのが役に立ったと思う。」と言っていた。

資料3 A男への質問文と答えの文



資料4 A男の写真と修正した文



注 波線は自分の思いが表れている表現

写真や実物を用いたオーラルプレゼンテーション活動では、「視線や気持ちの入れ方に注意しよう。」とA男に助言した。A男は意欲的に活動し、新幹線の雑誌の切り抜きを見せながら発表することにも慣れた様子だった。「写真は本物に近いので、気持ちが入っておもしろいし、間違えてもあまり気にならなかった。」と発表後の感想に書いている。

B女は友達への質問をすぐワークシート に作成した。「相手の考えを知りたかったので、感想を聞く表現を使った。」と言った。また、友達から三つ質問を受け、その質問にも正しく答えられていた(資料5)。B女はすすんで「基本文集」「自己表現文例集」を開き、活用していることが自己評価からもわかった。そしてB女は質問に対する答えを参考にして修正し、さらにテニスへの思いが込められた英文にできた(資料6)。

資料5 B女への質問文と答えの文

QUESTION	Q What did you buy?	Q Where did you buy?
	Q Are you going to play tennis after school?	
ANSWER	P I bought it about four months ago.	
	Q I bought it Alpen in Ashikaga.	
	Q Yes, of course.	

資料6 B女の写真と修正した文



注 波線は自分の思いが表れている表現

実物や写真などを示しての発表の場面では、B女は写真を見せながらはきはきと話することができた。発表後の感想では、「はじめに考えた文を言っていたら忘れてしまった。でも、写真を見るとイメージがわきやすく、言いたいことが思いついた。写真を見ると言いやすい。」と書いている。実物や写真を使ってオーラルプレゼンテーション活動を行った他の生徒の感想の中には、「写真を見せるとみんな集中して聞いてくれるので話しやすい。」「写真があるとはずかしくない。」「みんな写真と内容が合っていてわかりやすかった。はっきり言えていて上手だった。」というように、発表活動にも慣れ、自分の思うことをはっきり伝えられていたことがわかった。

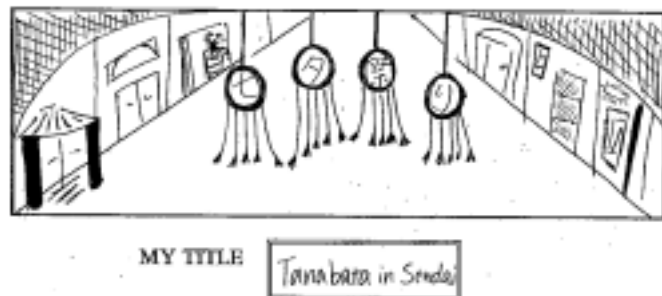
以上のことから、応用の過程で、自分の興味・関心がある身近なものについての英文を聞き合い、それを参考にしてさらに工夫した表現に修正し、写真や実物を示しながらグループでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、自分の思うことを表現することに慣れるために有効であったと考える。

3 発展の過程で、「大切なもの」「感動したこと」「やってみたいこと」の三つのテーマから一つ選び、自分の考えることや思うことを英文でまとめ、絵に描いて示しながら、クラスでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、成就感をもち、英語ですすんで自己表現しようとする態度が身に付くために有効であったか

まず、「大切なもの」「感動したこと」「やってみたいこと」という三つのテーマの中から生徒が選択し、ワークシートにテーマについて、考えることや思うことを英文にまとめた。

A男は「感動したこと」を選び、「3年前に訪れた仙台の七夕のことを言いたい。」と言った。今までに活用した表現を使ったり、新たに“ I'm sure~. ”などの表現を取り入れるなど、工夫した英文で書けた。A男は「仙台の七夕がすばらしかった。アーケードに下がっていたのが見事だと思った。」という思いを英文にした(資料7)。

資料7 A男の描いた絵と英文(スピーチ)



Hi everyone. I want to tell you about Sendai's tanabata festival. I went to Sendai to see a tanabata festival three years ago by Max-yamabiko super-express. Do you know Sendai's tanabata festival? I think it's very wonderful. Because tanabata is very very big and hanging in the arcade. I'm sure you will like it. Thank you.

注 波線は自分の思いが表れている表現

まとめで行ったオーラルプレゼンテーション活動では、消極的であったA男が、仙台の七夕を見た感動を伝えるために、七夕の絵を見せながら自分が一番言いたい“ ・ ・ hanging in the arcade. I'm sure you will like it. ”を強調して話し、自分でも満足できた様子であった。

B女はテーマの中から「やってみたいこと」を選択し、タイトルを“ My Dream ”とした英文を書いた。「夢は医者か教師になることである。どちらも大切な仕事だと思うからである。」という内容で、自分の思いを上手に表現した。多少、文法的な間違いは見られたものの、たくさんの英文を作ったのは、自分の言いたいことをできるだけ伝えようとする気持ちの表れであると考える（資料8）。

資料8 B女の描いた絵と英文（スピーチ）



Hell, friends. Let me tell you about my dream.
 I want to be a teacher or doctor. Do you know why?
 I have three motives. First, I like to talk with my
 friends. Next, I want to speak to many people. I think
 it's very difficult. But, it's very important. Lastly,
 I show respect for my teacher. But, I can't see her
 because, she lives in Niigata. I want to see her again.
 So, I want to be a teacher or doctor.
 Thank you very much.

注：波線は自分の思いが表れている表現

クラスでのオーラルプレゼンテーション活動では、資料8のように自分の「夢」を絵に描き、はきはきと明るい表情で絵を示して堂々と発表できた。授業後の自己評価では、「絵を見せながら自分の考えを入れてはっきりと言えたと思う。英語での表現力がついた気がする。」と書いていた。また、他の生徒の中には、「英文だけでは不安だったけど、絵を見ると自分の伝えたいことが確認できた。」「自分の英語が絵になった気がして発表しやすく、うまくできた。」「良くできて嬉しかったので、またやりたい。」と感想に書いている者もいた。

以上のことから、発展の過程で、「大切なもの」「感動したこと」「やってみたいこと」の三つのテーマから一つ選び、自分が考えることや思うことを英文でまとめ、絵に描いて示しながらクラスでオーラルプレゼンテーション活動を行うことは、成就感をもち、英語ですすんで自己表現しようとする態度が身に付くために有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

自分の興味・関心があるものについて英語で考え、相手に伝えるという活動は、生徒にとって親しみやすく楽しい活動となった。また、自分の考えを英語でまとめられたことに成就感をもち、段階が進むにつれ、いろいろな英語表現を使ってみようとする意欲的な場面が見られた。これらの点から英語ですすんで自己表現しようとする態度が育成されたと考える。

カードや写真、絵などを示してのオーラルプレゼンテーション活動においては、示す物の段階を経ることで、思いも次第に強くなり言いたいことがより明らかになった。物を示すことで、文法や語彙の不足も補え、少しずつ自信をもって発表できるようになったと思われる。これらの点からもオーラルプレゼンテーション活動は有効な手立てであったと考える。

生徒が英語を使ってさらに充実した、達成感のあるオーラルプレゼンテーション活動を行うようになるためには、語彙数を増やして文法事項により習熟する必要があると考える。なぜなら、語彙や文法事項が定着することにより、自分の言いたいことを英語で表現する力が増し、自分の考えや思いが容易に伝えられるようになるため話す意欲も高まるからである。今後は、英語ですすんで自己表現しようとする態度を育成するための指導を工夫し、自己表現活動をできるだけ授業に取り入れていきたいと考える。

参考文献 ・平田 和人著 『中学校英語科 絶対評価規準づくり』明治図書(2002)